

令和6年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 新千葉 第2教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。

この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/6/29~R7/7/9> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/6/29~7/9>

強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼に職員間で支援内容の振り返りや話し合いが行われている ・運営指導（他拠点の分）や保護者の意見を業務改善につなげている ・業務の効率化や改善に向けた取り組みが行われている ・職員の資質向上を図るために、研修を受講する機会が確保されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな資格や経験を持つ職員による支援内容の振り返りを実施しており、多方面の視点から話し合いを行い、支援に反映しています。 ・資質向上のための研修が年内に数回計画されており、定期的に学ぶ機会が設けられています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質向上のための研修を形骸化させないため、プログラムや児童の取り組む日々のルーティン内に、研修で実施した内容を組み込むことを検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の発達段階や特性を把握し、配慮した支援ができています ・活動の目的やねらいを意識したプログラムを作成している ・研修や事業ポリシーで学んだことは、支援に活かしている ・必要に応じて、学校・保育所・相談支援等と連携を取れている ・学校等との情報共有（年間計画・行事予定等の交換・お子様の下校時刻の確認等）が適切に行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドットジュニアにおける「5つの療育クラス」に基づき、毎月さまざまなねらいを持たせたプログラムを実施できるよう工夫しています。 ・保護者のご意向のもと、近隣の保育園へ訪問し、地域の中での通所児童の様子を知るとともに、担任の先生方とも交流を図っています。 ・必要に応じて学校だよりをお預かりし、行事予定や都度の下校時間の把握が行えるよう工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてリクエストプログラムを実施します。 ・保護者の意向を確認の上、保育園／学校へ訪問し、連携を図ります。
<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容について、保護者と定期的に情報共有を行っている ・保護者の意見や要望を受け止め、個別支援計画や実際の支援に反映している ・家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている ・安全計画に沿って、研修が実施されている ・災害時に備えた避難訓練が実施されている ・けがや急病時の対応手順を把握し、実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは、送迎時・電話・LINE・HUGにて日次で気軽に相談していただけるよう各種媒体を整備し、相談が円滑に行われるよう工夫しています。 ・モニタリング時のみならず、電話連絡をはじめとした日々の連絡体制においても、意見や要望を受け止め、支援に反映できるよう努めています。 ・避難訓練は毎月1回、集団療育プログラムにおいて実施しており、災害に備えて定期的に行っています。 ・けが対応フローチャートに基づき、どの職員であってもすぐに報告・連絡・相談が行える体制を整えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、拠点で使用している対応フローチャート、ガイドライン、マニュアルの内容を保護者へも周知し、安心感向上につなげます。

弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様に分かりやすく（構造化）、安心して過ごせる環境（物理的・心理的）が整っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室が、クールダウンスペースとして活用することが出来ていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室の整理実施、児童の求めや職員の判断で、即時にクールダウンのできる場所として提供できるように環境を整えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の活動内容や発達段階に応じたスペース（発達支援室・個別の部屋や場所）が確保されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム、自習時間、自由時間の過ごす場所のスペース確保が十分に確立できておらず、運動する児童と座って遊ぶ児童が同じエリアに存在してしまうことが稀にあり、けがやトラブルを誘発するきっかけになりかねません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机の位置やプログラム実施のスペース、個別対応時に使用する場所などを統一します。 ・教室のお約束を掲示するなど、児童にわかりやすい形で可視化し、安全確保します。
<ul style="list-style-type: none"> ・家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの悩み等に対する相談件数が少ない状況です（各関係機関へは必要に応じて相談されている内容も、教室へ寄せられるのは数件のみにとどまっています）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りのお送り際には、「近頃は何か変わった様子などありませんか」「ご家庭での過ごし方はいかがですか」等、引き継ぎのみならず保護者へ寄り添った言葉かけを行います。 ・LINEやHUGを活用の上、全体で一斉送信する連絡時に「気軽にご相談ください」のような一文を添え、連絡しやすい体制を整えます。